

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

鷺敷中学校  
「学力向上実行プラン」

- 望ましい人間関係のもと、主体的に学び、考えることを大切に、協働的に学び合いながら、他とかかわる力や表現力などの能力を伸ばしていく指導のあり方を探る。
- 特別支援教育の視点を踏まえ、どの生徒にも楽しくわかる授業を創造する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
西内 志歩	龍田雅和(校長)、永岡大輔(教頭)、岩川卓央(教務主任)吉田光宏、(研修主任・1年主任)、松本真治(2年主任)、植田輝樹(3年主任)

校長

龍田 雅和

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけている生徒が多い。また、与えられた課題にまじめに取り組むことができる。 ●課題の内容が難しかったり、量が多かったりした場合に学習への意欲がそがれてしまうことがある。	①年間の見通しをもって授業に取り組んでいる。 ②漢検・英検などの試験に挑戦する。 ③基礎的な知識・技能が定着している。	①グランドデザインシートを活用するなどして授業始めに年間の見通しを伝える。 ②年間に1回は検定を受けさせる。 ③小テストなどを定期的に行う。テストの結果から理解ができていない単元があれば、再度小テストを行うなどの繰り返し学習を行い、定着を図る。	①年度当初に実施した。 ②年間に1回は検定をうけるよう声かけを行う。1学期は、部活動などで忙しい生徒も多いため、2学期や3学期にある検定に挑戦しよう勤める。 ③実施を継続しながら効果を検証している。	①全教科の授業において、年間の見通しを年度初めの授業で提示し、生徒は学習の見通しをもって取り組む事ができた。 ②3年生はほぼ全員達成できたが、1、2年生は2割程度しか達成できなかった。 ③教科による偏りはあったものの、ほとんどの教科で小テストが実施できた。	①次年度以降も、年度初めの授業で年間の見通しを提示することを続け、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 ②1、2年生の達成率が5割を超えるよう、継続して検定を受検するよう声かけを行う。 ③継続して基礎的な知識や技能の定着を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを发表或し、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる。 ●身に付けた知識・技能を、他の学習や生活の場面に関連付けたり活用したりすることに課題がある。	①根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えや意見を的確にまとめ、わかりやすく適切に表現し、相手に伝えることができる。 ②課題に対して最後まで粘り強く取り組み、解決することができる。	①班活動やペア学習などを取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業を展開する。また、ICTを活用し、意見を共有することができるようにする。 ②段階的な課題を提示することで、達成感を積み重ね、意欲的に課題に取り組むことができるようにする。	①班活動やペア学習だけでなく、全体での教え合い活動や、全員の前で説明する機会を増やす。 ②実施を継続しながら効果を検証している。	①班活動やペア学習などの主体的・対話的な学びの時間は、6割程度の授業で取り入れられた。 ②ICTを活用した授業はほとんどの教科で実施された。特にデジタル教科書やMetamojiの活用が多かった。	①ICTを効果的に活用し、主体的・対話的な学びの充実を図る。 ②段階的な課題を提示することで、達成感を積み重ね、自己効力感の向上につなげる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業において、与えられた課題に対して、粘り強く一生懸命取り組むことができる。 ●「難しい」「苦手」と感じたことには興味を失ってしまい、あきらめてしまうことがある。	①共に学び合、主体的な行動ができる。 ②家庭学習が充実している。	①授業のめあてとまとめを提示し、授業中の見通しをもつことができるようにする。また、生徒同士で教えあったり、話しあったりする時間を設ける。 ②定期テスト前に家庭学習の時間の目安を提示したり、学習時間のアンケートをとったりして、家庭学習の時間を意識して取り組むことができるようにする。	①実施を継続しながら効果を検証している。 ②家庭学習時間の推移を廊下などに掲示し、視覚的に家庭学習の時間を意識できるようにする。	①めあてはほとんどの授業で提示され、授業の見通しをもって学習に取り組む事ができた。しかし、振り返りの時間は半分程度の授業でしか行われなかった。 ②目標(1年:70分・2年80分・3年100分)が達成できたかのアンケートを生徒主体で行い、推移を掲示することで、家庭学習の時間を意識していた。	①本時のまとめを意識させ、生徒の言葉で振り返りを行うことで、学んだことの定着を図る。 ②テスト前だけでなく、普段から家庭学習に取り組めるような環境づくりや支援を充実させる。

令和7年度 学力向上ロードマップ

